

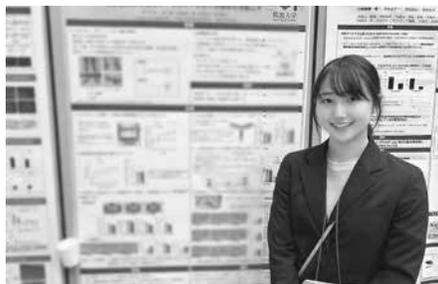
会員だより

医学群医学類4年の高石紗楽と申します。この度BPCNPNP2025（第47回日本生物学的精神医学会・第35回日本臨床精神神経薬理学会・第55回日本神経精神薬理学会合同年会）にて研究発表を行い、若手優秀発表賞を受賞いたしましたので、ご報告申し上げます。

本大会は、国立京都国際会館にて、「精神疾患の世界を変える～野望を持って理想を目指せ！～」をテーマに開催されました。基礎研究のみならず、臨床研究やトランスレーショナル研究、さらには日常診療に直結するセミナーまで、非常に幅広い領域の発表が行われており、基礎研究者だけでなく多くの臨床医の先生方が参加されている点が印象的でした。

研究室からは、医学類学生3名が本大会に参加しました。私は、キネシン異常が自閉スペクトラム症（ASD）を伴う非典型的シャルコー・マリー・トゥース病を引き起こす機序の解明をテーマに、ポスター発表を行いました。本研究では、トランスジェニックマウスを用い、行動解析、組織学的解析、電気生理学的解析を組み合わせることで、表現型と病態との関連性を検討しました。特に、特定のキネシンが担う物質輸送機構に着目し、神経機能障害の背景にある病態メカニズムの解明を目指しています。審査員の先生方が各ポスターを回り、今後の研究につながる具体的なご助言や、研究の将来性を評価して下さるコメントをいただきました。

学会中は、ASD、ミクログリアの発達、腸内細菌と精神疾患、免疫系と脳機能の関係、慢性疼痛など、関連する多くの分野の発表を聴講しました。中でも、小脳と社会性の関連など、これまで精神疾患との関係があまり注目されてこなかった領域に焦点を当てた発表が多く、大変刺激を受けました。二日目の夜には懇親会が開催され、学生の方々と研究について語り合う中で交流を深めることができました。自分がどのような分野に関心を持っているのかを積極的に伝えることの重要性を実感しました。懇親会では、先生方のスピーチもあり、神経疾患研究の進展を踏まえ、「次は精神疾患の未来を明るくしたい」という大会テーマに込められた強い思いが伝わってきました。精神疾患は未解明な部分が多く、社会的理解を得ることが難しい側面もありますが、今後メカニズムの解明が進み、新たな治療法が確立されていく可能性を強く感じました。



今回、若手優秀発表賞を受賞したことは、大きな励みとなりました。いただいたご指摘を踏まえて研究内容をさらに深化させ、次回は口頭発表にも挑戦したいと考えています。最後になりますが、医学医療系の森川 桃先生をはじめ、ご指導くださった先生方、研究室の学生の皆様、ならびに審査員・オーガナイザーの皆様に、心より御礼申し上げます。

医学類4年 高石紗楽

学会演題

高石紗楽, 森川 桃, 岩田 卓, 佐々木哲也, 武井陽介 . KIF 変異が自閉症スペクトラムを呈する非典型的シャルコー・マリー・トゥース病を引き起こす .

BPCNPNP2025. 2025.11.13-15. 京都国際会議場